

小林 康夫 (東京大学教授)

①ブローデル歴史集成Ⅰ 地中海をめぐるフェルナン・ブローデル著、浜名優美監訳

(藤原書店・九、五〇〇円)

②記憶・歴史・忘却(上) ポール・リクール著、

久米博訳 (新曜社・五、三〇〇円)

③マラルメ伝 ジャン＝リュック・ステンメッツ著、

柏倉康夫ほか訳 (筑摩書房・一三、〇〇〇円)

軽い洒落た本も悪くはない。が、本の真の味は、著者が何年もかけて書き上げる時間の重みのうちにある。私自身はそういうタイプの研究者ではないが、ひとりの学者が生涯の長い時間をかけて完成させた仕事を今年に評価したい。しかも内向きの時勢に抗して海外からの重厚な仕事を。ど

れも私の専門のフランスからだが、①は地中海の歴史をめぐる巨匠の壮大なスケールの仕事の第一巻。②は老大家の哲学者が全力をあげて歴史の哲学に挑んだ大著の上巻。③は評伝では定評のある文学研究者の渾身のマラルメ伝。こういう本が書き読まれなくなったとき知は滅びるだろう。